



本号の目次

1. ようこそ、IRPA 会報へ
2. IRPA 理事会からのお知らせ
3. 第 14 回国際放射線防護学会大会
4. IRPA 加盟学会からのニュース:
カメルーン放射線防護学会、日本保健物理学会
5. IRPA 地域会合の案内

IRPA 出版委員会

委員長: Christopher Clement
副委員長: Bernard LeGuen

会報編集
Chunsheng Li, Ali Shoushtarian

加盟学会連絡
Adelene Gaw

ウェブサイト管理運営
Andy Karam, Chris Malcolmson

ソーシャルメディア管理運営
Sven Nagels, Chris Malcolmson

メディア情報収集・提供
Melanie Rickard
Ralph Thomas
Sven Nagels
Young-Khi Lim
Duncan McClure
杉山 大輔



ようこそ、IRPA 会報へ

18,000 名強のメンバーから成る国際放射線防護学会 (IPRA) の会員みなさまに、IRPA 会報の創刊について紹介させていただくことは大変喜ばしいことでもあります。IRPA は、放射線防護の専門家の国際的な表明者となるよう努力しています。この四半期に一度発行される新しい会報は、主として IRPA 会員を対象としたものではありませんが、この目的を実現するための重要な一部分であります。

IRPA 出版委員会 (CoP) の一新は、49 のすべての加盟学会の会員が、彼らの国や地域外でいま何が起きているか、それをより学ぶことに焦点を置いています。すでにお気づきかもしれませんが、昨年、私たちのウェブサイト (irpa.net) の整備が行われ、より容易に、さらに直感的に、あなたが欲しい情報にたどり着けるようになりました。ウェブサイトの第一面に判りやすく掲載された、これまでに無いほどに活発な、irpa.net ニュースの配信を行っています。ソーシャルメディアを通じた見える化もしました。フェイスブックの“いいね!”を押ししたり、ツイッターでフォローしたり、RSS フィードや電子メールで更新情報を受け取ることができます。

これらの新しいメディアは迅速で頻繁な意思疎通のためにはとても魅力的であります。比較的短いメッセージが主となっています。この会報は、私たちのメディアツールを補うものです。四半期に一度とあまり頻繁ではありませんが、注意深く選ばれたいくつかの重要な話題に焦点を当て、140 文字のツイートよりも深い情報を提供できるという利点があります。もう一つの利点は、多言語に翻訳されて配信されるということです。英語は IRPA の使用言語ではありますが、多くの会員にとって第一言語ではありません。私たちはこの会報が、少しでも、言語の障害を乗り越えるのに役立つことを期待しています。

これはどのようにして成し遂げられるのでしょうか。その答えは単純で、ボランティアメンバーから力をお借りするのです。CoP のメンバーは、カナダ、フランス、ドイツ、日本、韓国、英国、そして米国から構成されています。私たちは、英語、フランス語、ドイツ語、日本語、そして韓国語で書かれた加盟学会の刊行物やウェブサイトから情報を収集する一流のチームを有しており、興味に満ちあふれた話題を、irpa.net やソーシャルメディア、この会報に提供することができます。

このチームに加わってみませんか? 私たちは別の言語を網羅するために、さらなるメディアレビューと、この四半期に一度の会報を翻訳するボランティアが必要です。もしご興味がありましたら、pub.dir@irpa.net までご連絡をお願いします。

クリストファー・クレメント
国際放射線防護学会 出版委員長

国際放射線防護学会

 <https://www.facebook.com/IRPA0>

 <https://twitter.com/IRPA>

 www.irpa.net

“IRPA 会報”の日本語訳は、IRPA の公式的な翻訳ではありません。不明な点については、原文にてご確認をお願いいたします。

This Japanese translation of "IRPA Bulletin" is not an official IRPA translation; hence, if you have any questions, please refer to the official version in English.

IRPA理事会からのお知らせ

• IRPA-FORO 協力協定

2013年12月、イベロアメリカ放射線・原子力規制機関フォーラム(FORO)とIRPAの両会長は、IRPAとFOROの間の協力活動に関する覚書を締結しました。FOROは、放射線安全および原子力安全を高度なレベルで促進する非営利組織であり、加盟国であるアルゼンチン、ブラジル、チリ、キューバ、メキシコ、ペルー、スペイン、ウルグアイの放射線・原子力規制機関から構成されます。本覚書の目的は、合同会議の組織化、FOROとIRPAのウェブサイトとそれぞれのメンバーのウェブページをリンクすることによるコミュニケーション、将来の協力・合同の活動に関する今後のイベントや開催地の情報伝達等により、放射線防護の分野における両組織の協力を強化することにあります。

• IRPA 加盟学会間の出版物共有

IRPA 加盟学会間の情報交換を促進するため、米国、カナダ、フランス、英国のメンバー間で出版物(CRPA Bulletin, Health Physics News, the SRP Newsletter, and the SFRP C.I.R. Newsletter)を相互に利用する試験的プロジェクトが進行中です。全てが順調であれば、この相互利用を他の学会に拡張するかもしれません。

• EU BSS の改訂

2013年12月5日、欧州連合理事会は、放射線防護に関する基本安全基準に関する欧州委員会の提案を、欧州議会と経済社会評議会への諮問を経て、承認しました。今後4年間にわたって、本基準は欧州連合加盟各国の国内法に施行されていくこととなります。<http://eur-lex.europa.eu/JOHtml.do?uri=OJ:L:2014:013:SO:EN:HTML>



第14回国際放射線防護学会大会 (IRPA14)

第14回国際放射線防護学会大会 (IRPA14) に皆さまをご招待させていただきますことをご大変喜ばしく思います。IRPA14は、2016年5月9-13日に南アフリカケープタウンで開催されます。テーマは、以下です。

放射線防護の実践～経験の共有と新たな挑戦～

この会議には二つの特別な節目があります。それは、第50回目となる国際放射線防護学会大会であること (IRPAは1964年に設立、1966年に第1回国際会議を開催した) と、アフリカ大陸で初めてのIRPA国際会議の開催であることです。

南アフリカには医療や産業における放射線の利用という長い歴史があります。原子力産業は、ウラン採掘、原子力発電、放射性同位元素製造の分野において、経済に重要な貢献をしています。南アフリカは、アフリカ地域と世界で急速に発展する経済グループにおいて、重要な役割を担っています。これらの側面は、今回の会合のテーマに特別な意味合いをもたらします。世界中の放射線防護の教訓を共有し、そこから浮かび上がる挑戦について議論するための貴重な機会を提供します。

この会議では、包括的、科学的そして技術的なプログラムやIRPA加盟学会のビジネスプログラム、そして、伝統的で暖かく、活気があって、友情のこもったアフリカの社会的に文化的なイベントを計画しています。私たちは2016年にケープタウンで皆さまをお迎えできることを楽しみにしております。



ようこそ、IRPA 新加盟へ： カメルーン放射線防護学会

カメルーン放射線防護学会（CRPS）についてIRPAファミリーに紹介させていただくことは、大変喜ばしいことであります（写真は、S. Saidouさんで、CRPSの会長であり、この記事の著者です）。



カメルーン放射線防護学会（CRPS）は、2013年7月にオタワで開催された第65回IRPA理事会において、49番目のIRPA加盟学会として承認されました。CRPSの目的は、知識や情報、研究を促進させることで、放射線防護を前進させ、この分野の専門家に人脈構築の機会を提供することです。CRPSの活動には、放射線科学の研究推奨や標準の策定、放射線安全情報の発信が含まれます。

CRPSには30名以上の会員がおり、電離放射線を用いた活動や、原子力科学技術の研究開発に携わっています。彼らの中には、チャド、コンゴ共和国、中央アフリカ共和国といった近隣諸国の方もいます。環境調査は最も進んだ活動の一つであり、CRPSと、ヤウンデI大学理学部原子核研究所地質工学研究部原子力技術課とダウアラ大学原子分子物理・量子工学センターといった研究機関が共同で実施しています。これらの活動は、スイスのローザンヌにある放射線物理学研究所、日本の千葉にある放射線医学総合研究所、国際原子力機関の協力も得ながら行われています。下記に挙げるようないくつかの研究が行われています。

- カメルーンのポリやロロドルフにあるウラン地域の公衆被ばく
- カメルーンのバカッシにある石油地域の公衆被ばく
- ポリやロロドルフのウラン地域の屋内ラドンとトロン
- カメルーンのベタレ・オヤやブトーリにある金の鉱山における EDXRF やガンマスペクトロメトリーを用いた環境調査
- 管轄権を有する当局に対する公衆や環境の放射線防護のための勧告案の作成
- 2012年と2013年に開催された環境調査（放射能と重金属）と原子力導入に関する二つの国内会議／ワークショップの運営
- ヤウンデI大学理学部における放射線防護の専門家修士プログラム創設に対する貢献
- ヤウンデI大学における原子力科学と技術の教育カリキュラム作成に対する貢献

原子力施設の検査、安全、セキュリティは、規制当局である国家放射線防護局によって行われています。CRPSは規制当局がその目的を達成できるように貢献することができます。

将来の活動

- 環境放射能、線量評価、ラドン／トロン、放射線リスク、原子力導入に関する国際会議（2015年）の運営
- 屋内ラドン／トロン測定の国レベルでの拡張とカメルーンにおける参考レベルの定義への貢献
- 電離放射線の有害な影響についての放射線利用者への注意喚起

日本保健物理学会：福島事故後の放射線防護の課題に関する議論



IRPA13で議論された福島第一原子力災害後の放射線防護に関連する課題についての提言文書の発行を受け、日本保健物理学会（JHPS）では、2014年に第二期提言を完成させるために、さらに議論を行っています。第一期提言に対しての世界中の放射線防護の専門家からコメントや提案をいただければ幸いです。コメントや提案は電子メールで exec.off@jhps.or.jp までお送り願います。第一期提言は <http://www.jhps.or.jp/en/wp-content/uploads/2011/12/53224f1dbbc1063ffff46bb5cc3fa01c.pdf> から入手できます。

IRPA 地域会合の案内

IRPA FS *FOURTH EUROPEAN IRPA CONGRESS*
Radiation Protection Culture - A Global Challenge
June 23-27, 2014 - Geneva, Switzerland

IRPA **AOCR-4**
IRPA Regional Congress, The Fourth Asian and Oceanic Congress on Radiation Protection
12-16 May 2014
PWTC, Kuala Lumpur

IRPA **4th African Regional IRPA Congress**
13-17 September 2014
Rabat, Morocco

IRPA **Buenos Aires ARGENTINA**
April 12- 17, 2015
X Latin American Regional IRPA Congress